

※市町村名は認定当時のもの。



参考10-2-1 「水の郷百選」分布図

参考10－2－2 「水の郷百選」認定地域一覧(107地域)

都道府県	地区名	「水 の 郷」 の 特 徴
北海道	喜茂別町	溪流釣りや湧水・地下水を活用したアスパラガス生産等活性化への積極的取り組みがみられる。
	京極町	羊蹄山の水源林の整備によって育まれた「ふきだし湧水」の周辺を「ふきだし公園」として整備とともに、この豊かな湧水を利・活用してミネラルウォーター、氷でつくったクリスマスツリーなどの特産品の開発を行っている。
	美深町	治水と利水との両者を目的とした「びふかアイランド」等の水辺環境整備や天塩川でのイカダ・カヌーのイベントの開催等水を活かしたまちづくりに取り組んでいる。
	大樹町	砂金掘りの伝統が年中行事の1つとして都市住民との交流の機会になっており、清流歴舟川河畔の景観形成を住民団体の河川愛護活動も得ながら取り組んでいる。
青森県	鶴田町	歴史深い人造湖「津軽富士見湖」周辺を「鶴と国際交流の里」と位置づけ、鶴にこだわった人と自然との交流の場づくりに取り組んでいる。
	十和田市 (旧 十和田湖町)	「溪流館」,「湧水館」の建設・活用及び十和田湖から流れる奥入瀬溪流の保全やわさび・天然水の商品化への取り組みがなされている。
岩手県	盛岡市	湧水が飲み水、米とぎ、洗い物等、日常生活の中で活用されている杜と水の都であり、「せせらぎ復活」をテーマに、河川と歴史を行かしたまちづくりを展開している。
	奥州市 (旧 胆沢町)	歴史的な農業水利施設である徳水園（円筒分水）の保存・整備、水路開拓伝説の町民手づくり舞台「町民劇場」での上演など、開拓の歴史を現在にも伝えている。
	岩泉町	龍泉洞まつりの開催やミネラルウォーターの生産・販売等、龍泉洞の澄んだ水を積極的に活用している。
宮城県	石巻市	歴史的遺産である北北上運河を河岸整備やライトアップによって、生活に潤いをもたせる空間として積極的に利・活用している。
	七ヶ宿町	「七ヶ宿ダム」と行った県民の水瓶を擁する水源のまちであり、ダム湖畔の公園整備や河川清掃、都市の人々の手による水源林整備など交流事業も盛んである。
秋田県	北秋田市 (旧 森吉町)	手つかずの原生林・滝等の大自然と雄大な景観が適正に保存され、阿仁川清流を使ったわさび栽培、その排水を活用したヤマメの養殖など水の循環的な利・活用がなされている。
	美郷町 (旧 六郷町)	60箇所の湧水を利用した野菜洗いや洗濯、天然冷蔵庫としての利用がはかられており、冬季の水田を活用した水源かん養への取り組みも行われている。
山形県	長井市	最上川の舟運のまちで、町内にも水路が多く残され、不伐の森条例を制定するなど積極的に水環境の保全が図られている。
	西川町	町水源地域管理公社による水源地域の整備、通常の基準をさらに強化した「水質汚濁防止基準」の制定など積極的に水循環の保全が図られている。
	遊佐町	共同洗い場が現在も活用されており、「月光川の清流を守る基準条例」の制定や合成洗剤追放運動などの水質保全の取り組みも盛んである。
	酒田市 (旧 八幡町)	町内各地の湧水が生活用水として利用されており、町名由来の水神「市条八幡宮」や「水まつり」など住民の生活と水とが密接なつながりを持っている。
福島県	郡山市	安積疏水が住民の生活や産業を支え、猪苗代湖が住民の憩いの場であり、基金を利用した水環境の保全・整備や流域管理システムの確立が図られている。
	只見町	電源開発の歴史を象徴する田子倉ダムなど5つのダムの湖面や景観をいかしたまちづくりがなされており、水源としてのブナ等の原生林の保存・整備が活発である。
	西郷村	阿武隈川の源流の里づくりを推進し、親水公園や遊歩道、森林や水田等の整備を図りながら、大自然を活用したまちづくりに取り組んでいる。
茨城県	土浦市	「水と人とのふれあい、未来にのびゆく土浦」をテーマに水の都を目指しており、桜並木の整備、風車を活用した浄化施設整備や景観整備を進めている。
	大子町	八溝川湧水群は自然やハイカーを潤し、この清流を活かしてワサビやクレソンの栽培が行われている。

都道府県	地区名	「水 の 郷」 の 特 徴
栃木県	茂木町	台風による大水害の復興を契機に、水質浄化出前講習会の開催、水質浄化シンボルマークの制定、「水辺の音楽会」の開催、水際ミニ商店街の創出等、水資源の保全と活用が積極的なされている。
	那須烏山市 (旧 烏山町)	那珂川の清流を活かした「那珂川フェスティバルイン烏山」の開催や、豊富で清らかな水を使用して作られる「烏山和紙」など伝統工芸による地域活性化が図られている。
群馬県	前橋市	「水と緑と詩のまち前橋」をキャッチフレーズに、全市公園化計画、都市型の水辺空間づくりが住民ボランティア活動を交えながら展開されている。
	甘楽町	約250年の歴史ある用水路が武家屋敷地帯を潤し、水田のかんがい用としても利用されており、地元の水保全活動も活発である。
埼玉県	加須市	浮野（重層石化した植物が浮かび湿原状になったもの）や武蔵野の昔ながらの田園風景の積極的な保全・活用を図り、トキソウなど貴重な植物の保護を町ぐるみで行っている。
	寄居町	ヤマトタケルノミコトが剣を突き刺したところ、湧き出たという伝説がある「日本水」の源水にちなんだ「日本水祭り」、「玉淀水天宮祭り」など水にちなんだ代表的祭りが行われている。
	北川辺町	利根川水系で洪水と闘ってきたまちで、屋敷林、水塚やあげ舟などが今もビジュアルに残されており、「水輪の文化」と称する独特の文化をまちづくりに活かしている。
千葉県	香取市 (旧 佐原市)	古くから利根川の水運で栄えた水郷であり、歴史的景観に配慮した水環境整備が行政と住民協力の下で積極的に実施されている。
	香取市 (旧 小見川町)	「水から（自ら）の発送によるヒューマン理想郷」の町づくりや、「黒部川貯水池水質保全協議会」による水質保全事業等が積極的である。
東京都	墨田区	ドラム缶タイプの貯水タンク「天水尊」の開発や両国国技館等での雨水の利用など、雨水を通常のみならず災害時の非常用水や治水対策に活用する取り組みが積極的に行われている。
	日野市	400年前に築造されたといわれる延長180kmにおよぶ用水路がめぐられ、土の用水堀の保存・補修、水車小屋の復活、環境図鑑の作成など、用水路の重要さについての啓発に努めている。
神奈川県	南足柄市	水源涵養機能を高めるため、水源林整備、基金設立による森の文化遺産の保存や雨水利用に積極的に取り組むとともに、「足柄金太郎まつり」など伝統行事の開催も行っている。
	清川村	宮ヶ瀬ダムとの共存を目指し、ダム湖を利用したカヌー教室、花火大会、クリスマスイベントなど水とのふれあいを深める取り組みが盛んに行われている。
新潟県	新潟市 (旧 豊栄市)	市のシンボルである「福島潟」周辺の水田を買収して潟の復元に努めたり、潟生態文化情報館を整備するなど福島潟の治水・利水をめぐる歴史豊かな生態系を保存・整備している。
	魚沼市 (旧 小出町)	流雪溝発祥の地として流雪溝の改良に取り組むとともに、湿地性植物の生態について調査・研究や、「魚沼コシヒカリ」、酒造など水を活かした産業が活発である。
	津南町	湧水群や豪雪による水源を保全するため町独自で水源のかん養に努めるとともに、湧水池における竜伝説を基に創作した伝統芸能が継承されている。
富山県	黒部市	きれいで豊富な水によって生活・生産の恩恵に預かってきており、住民の水に対する関心も高く、黒部名水会やくろべ水の少年団が調査・保全等の活動を行っている。
	砺波市	カイニョと呼ばれる屋敷林に囲まれた散居村の家々が保全され、螺旋水車の保存・展示や日本一の五連揚水水車の展示なども行われている。
	入善町	生活用水として掘抜き井戸や小川を屋敷に引き込む生活様式が現在でもみられ、「下山芸術の森」など町全体のギャラリー化を目指している。
	砺波市 (旧 庄川町)	「水記念公園」を中核とする「全町水公園化構想」を推進し、「水資料館」において水の貴重さを知らしめる啓蒙活動も実施されている。
石川県	小松市	鉱山によるカドミウム汚染問題に対して、鉱毒防除に取り組み、河川の水質改善と農用地の改良を実施しており、野外博物館を設け、動植物生態系に配慮した水辺環境保全に取り組んでいる。
	輪島市	水源涵養田としての機能の発揮、良質米の生産など棚田（千枚田）の適正な保存・管理を図っている。
	白山市 (旧 美川町)	かつての北前船の商港が栄えた歴史ある情緒が現在でも残されており、ウォーターフロントを軸としたまちづくりが促進されている。

都道府県	地区名	「水 の 郷」 の 特 徴
福井県	大野市	地下水保全条例の制定、冬期の水田の湛水も行いながら、流雪溝整備など地下水保全のための取り組みが積極的に行われている。
	若狭町 (旧 上中町)	歴史的まちなみとの調和を図りながら、熊川宿の疏水について、水質の確保はもとより「かわと」(水利施設)の維持・整備、前川用水の活用等で、快適居住環境づくりに活かしている。また、冷たさで有名な「瓜割の滝」を中心に名水公園を整備し、人々の交流の場として活用している。
山梨県	小菅村	森林整備への村独自の支援も行いながら、東京都と協力して積極的に水源林の整備を進めている。また、「多摩源流まつり」・「多摩源流シンポジウム」の開催など、上下流一体となった水とのふれあいや交流を深める取り組みを行っている。
長野県	箕輪町	基金等を利用した水源涵養林の保護・育成や水道水源の保護を目的とした「水道水源保護条例」の制定など、積極的な町ぐるみの水の保全活動が行われている。また、日本一のもみじの渓谷を目指して、町民による自主的な植樹活動も活発に行われている。
	木曽町 (旧 木曽福島町)	木曽川の清流を復活させるため、ダムからの放流を実現するなど町をあげての取り組みを行うとともに、イカダを操る「中乗りさん」などのような独自の文化を生み出した木曽川において、町民が積極的に参加しながらさまざまなイベントを開催し、地域活性化を図っている。
	安曇野	安曇野市(旧豊科町、旧穂高町、旧明科町)
		安曇野の豊富な湧水を利用した、わさび栽培やニジマスの養殖が盛んで、表流水は堰により水田に利用され、地下に浸透した水が湧水としてわさび栽培に利用され、さらにその排水がニジマスの養殖に利用されるなど水が循環利用されている。
岐阜県	大垣市	洪水の被害から守るためにつくられた輪中や水屋を後世に伝えるため、水源の保全や、輪中館の整備に取り組んでいる。また、河川を利用して親水空間のある広場が整備され、「水門川鯉まつり」等の新たな祭りやイベントが数多く行われている。
	海津市 (旧 海津町)	木曽三川公園、歴史民俗資料館などにおいて、水と関いながら郷土を築き上げてきた歴史を展示しているほか、トライアスロン大会、デレーケレガッタなど河川を利用したスポーツも盛んに行われている。
	郡上市 (旧 八幡市)	町の各所での湧水、町中に張り巡らせた用水路により生活が支えられており、水舟等の独自の水文化が生まれた。この水資源を守っていくために「洗い場組合」等の組織が住民の間で組織されている。
	下呂市 (旧 馬瀬村)	「水源かん養林造成基金」の設立により、森林の整備に努めるとともに、清流を利用し鮎にこだわった独自の漁労文化を有している。
静岡県	三島市	富士山と箱根の山からの湧水がいたるところでみられ、伝統的流し場(カワバタ)の保存、湧水池を公園として整備して市民の憩いの場として利用するなど、水を活かしたまちづくりに努めている。
	浜松市 (旧 天竜市)	森林との共生、水辺の郷づくり、家庭排水浄化活動など、水を介した地域交流の推進に積極的に取り組んでいる。
	かわね郷	川根町、川根本町(旧中川根町、旧本川根町)
		大井川に清流を復活させるなど河川環境の保全に積極的に取り組んでいる。大井川の川霧による高品質のお茶の生産も盛んであり、「流したい」などの伝統行事も伝承・保存されている。
愛知県	豊田市 (旧 旭町)	矢作川流域市町村との交流・連携を深めながら、流域一体となった水環境保全に取り組んでいる。また、ダム湖を利・活用した周遊ジョギング大会、湖水祭り、カヌー大会等のイベントが盛んに行われている。
三重県	桑名市 (旧 長島町)	「輪中」とそれにかかわる住民の水との戦いの歴史、文化をもとに「輪中の郷」の整備や長島川の環境整備を行い、塩水を利用した金魚、海苔などの養殖も盛んである。
滋賀県	近江八幡市	琵琶湖に面した、自然豊かな水郷地帯が広がり、往古の湧水、若宮湧では、水車・野菜の洗い場などがかつての水辺文化の再現を目指した整備が行われ、ここは住民らによる輪番の清掃で管理されている。
	甲良町	用水路が町内を巡り、灌漑用水、水遊び、庭への引水、洗濯、野菜洗い、鯉放流、融雪、雨水排水など日常生活に根づいた水の恵みを大切にしている伝統が保持されている。
	米原市 (旧 米原町)	日本武尊ゆかりの湧水、居醒の清水をもち、「ハリヨ」など地域固有の環境や生態系保護を目的とした草の根のまちづくりが盛んで、「さかな学習館」の整備や「おいしい水探検隊」の活動も進められている。
	高島市 (旧 マキノ町)	山中の自然水の簡易水路への利用、中流域でのわき水の生活利用、下流域での河川水害への地元水防組織の活躍、湖岸近くの漁業的利用など自然条件に応じた複合的な利水・治水が歴史的に形成され、今も活かされている。特に、17世紀からのヤナ漁の文化が現在まで伝承されている。

都道府県	地区名	「水 の 郷」 の 特 徴
京都市	南丹市 (旧 美山町)	ブナノ木峠（芦生原生林）を水源とする美山川の清流、茅葺屋根に代表される歴史的景観を保全し、河川や天然水など良質な湧水を活用したお茶、水の販売を積極的に行っている。
大阪府	大阪狭山市	歴史的価値の高い狭山池をはじめとするため池の再開発を行い、市内各地に分散するため池等多くの水辺資源を活かした水辺に彩られたまち（水辺のエコミュージアム）づくりを進めている。
兵庫県	豊岡市	江戸時代より円山川流域に栄えた柳産業の柳ごうりの文化と、市内に生息するコウノトリの保護、またこれをシンボルとしたコウノトリの郷公園の整備など、円山川を中心とした水辺環境の整備や、民間団体の水環境保全活動が盛んである。
	上郡町	400のため池と150の井堰が残され、それらの有効利用のため、下水処理施設整備等水質の保全に努めている。また、河川にまつわる民話や水争いの記録を小冊子として後世に伝える等、水環境保全の普及・啓蒙活動が活発に行われている。
	宍粟市 (旧 千種町)	日常生活において現在でも湧水や井戸水との密接な結びつきがみられ、このような豊富な中国山地の水源地文化を「たたら資料館」の施設整備において伝承・保存し、官民一体となって「大いなる田舎」づくりをキーワードに水を活かした地域づくりに努めている。
奈良県	天川村	水の神、天水分神社や平安時代からの雨乞い仏を祀る永豊寺など歴史的にも深く「水」にかかわり、かつば伝説、南朝帝入水伝説、蛇伝説等も残され、水産品の生産やイベントを他に先駆けて実施している。
和歌山県	日高川町 (旧 美山村)	椿山ダムを中心に、県下唯一の漕艇場など湖面を活用したスポーツエリアとして整備し、湖周辺でのフルマラソン大会や、村民総参加の河川清掃活動を行っている。
鳥取県	米子市 (旧 淀江町)	豊富な湧水をニジマスの養殖、大手清涼飲料メーカーの源水として利用し、清涼な水を地域住民と行政が大切に守る一方、町おこしや観光振興にも積極的に活用している。
島根県	松江市	宍道湖、中海、松江堀川といった多彩な水辺の表情をもち、水を守り、水を活かした新しいまちづくりを行っている。
	江津市 (旧 桜江町)	江の川の古くからの洪水への祭礼を継承し、水害に対する「治水」から「活水」という考えに移行し、水の国の建設や、水の文化研究、フォーラムの開催などを行っている。
	津和野町	湧水に恵まれ、酒造や和紙の生産が盛んである。伝統と現在の河岸整備を融合させた趣あるまちづくりを行っており、住民が用水から水を引いて自家用に利用するなど、生活と水とのつながりがみられる。
岡山県	岡山市	岡山城や後楽園周辺の史跡や水のある独特な景観を活かした環境の整備や、国の天然記念物「アユモドキ」の保護、さらに河畔に文化をおこすための住民による演劇などの環境保全活動が行われている。
	津山市 (旧 加茂町)	森林保護を図るための22世紀の森の制定や基金条例の制定、また、水質保全の取り組みなど、積極的に水と森の郷づくりを進めている。夏にはアユ漁が盛んで、珍しいところでは水車利用の線香作りが行われている。
広島県	広島市	古くから「水の都」と呼ばれ、川を通じた人の交流をはかるため遊覧船事業を行い、また（財）広島県水源の森基金を通じ、太田川水系の森林造成に努めている。また、豊かな森林に育まれた太田川の豊かな水によって名産のカキが生産されている。
	東広島市	約3,000の溜池の「青」と田の「緑」に点在する農家の瓦の「赤」が織りなす景観が美しい西条盆地は、古代湖であり、堆積した湖成層が酒造りに最適の地下水を創り出し酒造業が伝統的地場産業になっている。
山口県	山口市	ホタル護岸工法とゲンジボタルの幼虫の養殖・放流の成功で市の中心部でホタルの乱舞がみられ、桜並木、治水緑地など、レクリエーションの場として水辺が利・活用されている。
	萩市	市街地を流れる延長約2.6kmの運河である藍場川周辺を「歴史的景観保存地区」に指定し、自然石を利用した橋への架け替え、昔洗い場、水汲みに利用した場所の改修工事などを行うとともに、松本川では現在も渡舟によって河川の利用がなされている。
徳島県	徳島市	市内を流れる合計138の河川空間を活かした都市環境整備や、ひょうたん島などの親水事業のほか、徳島水事典の制作、「水と緑の基金」の設置等により名水の復活を図り、市民の水環境保全への意識を啓発している。
香川県	まんのう町 (旧 満濃町)	灌漑用のため池が500ほどあり、日本最大の灌漑用ため池である満濃池に代表されるように、古くからの利水システムが現在もいかされている。
愛媛県	西条市	地下水がいたるところで自噴し、これを「うちぬき」と呼ぶ。うちぬきは生活用水、農業用水、工業用水などに利用され生活に欠かせないものとなっており、水質保全に対する取り組みも盛んである。

都道府県	地区名	「水 の 郷」 の 特 徴
高知県	四万十市 (旧 中村市)	水辺で生育するトンボをシンボルとして、水環境、特に四万十川の清流の保全が市民参加により活発に行われている。また、河川清掃を通じて他地域との交流やイベントも盛んに行われている。
	高知県 嶺北地域	(本山町,大豊町,土佐町,大川村,いの町 (旧 本川村))
		「れいはくはひとつ」の考えにより、自治体の広域連携や「吉野川流域ネットワーク」で、水源涵養のための森林整備活動なども行っており、「四国のいのち」の水瓶としての早明浦ダムは水遊びや上下流の交流活動のメッカとして位置づけられている。
	梶原町	千枚田オーナー制度による棚田の保全、四万十清流保全林の購入や鎮守の森づくり条例の制定による森林づくりと交流の場づくりに努めるとともに、山村間の交流と連帯を図るため全国的サミットを開催している。
	四万十町 (旧 十和村)	村の青年達が中心となり、昭和48年から「四万十川まつり」を開催している。全戸参加の一斉清掃や、四万十川方式という排水処理施設の設置などが整備されている。
福岡県	柳川市	町中に堀割が張りめぐられ、農業用水、生活用水、交通路として利用され生活と密着している。
	朝倉市 (旧 甘木市)	「あまぎ水の文化村」を整備し、新しい水文化の創造を目ざすとともに、遊びながら学習できる環境の創造を図るとともに、城下町を流下する石積みの水路の保存や清流にしか育たない淡水のり「川茸」の栽培を行っている。
佐賀県	佐賀市	市内に総延長2千kmにおよぶ全国でも有数の河川、クリーク、水路が縦横に発達し、水と親しむ親水都市づくりに取り組んでいる。また、カッパ祭りなど、水をめぐるまつりやイベントが盛んである。
	佐賀市 (旧 富士町)	清流のシンボル、カジカガエルを復活させるため、「カジカの里づくり」や「ファープルの森基金」の設立による体験学習を行う森づくり、流域住民が参加する親林交流隊等により、人だけでなく生物にとっても住みやすいまちづくりに取り組んでいる。
	神埼市 (旧 神埼町)	昔、水路を利用して稼働していた水車群の一部を復元し、「水車の里」を整備するとともに、水車で挽かれた粉は特産品であるそうめんの原料として利用されるなど、地域活性化に活かされている。また、佐賀平野特有の風情を残すクリーク地帯は、公園整備により学習の場として利活用されている。
長崎県	島原市	古くから「水の都」と称され、豊富な湧水は共同洗い場などのように市民の生活用水として利用、自主管理されている。武家屋敷跡には、当時の水路が残され、水と城下町のイメージにそったまちづくりが進められている。
熊本県	熊本市	河川や豊富な湧水のある名水都市であり、地下水保全条例の制定や、雨水浸透施設に対する助成を行ったなど、官民あげて地下水の保全に取り組んでいる。「熊本の水を良くするボランティア協議会」が水循環の保全活動を行い、「天明水の会」では保全のための人材育成にも取り組んでいる。
	南阿蘇村 (旧 白水村)	水源地域周辺、涵養域を「環境保全地域」に指定し、「地下水保存条例」による保全対策や環境整備を実施している。また、各水源では、住民が「水源保存会」を結成し、管理・清掃活動などを活発に展開している。
	嘉島町	湧水に恵まれ、湧水を利用した天然プールでは魚が泳ぎ、人と自然の交流の場が設けられている。古くから水害との戦いの歴史を有しており、湧水保存活動も活発に行われている。
	山都町 (旧 矢部町)	町に水を供給し、農業を振興した通潤橋は、今では貴重な観光資源となり町の活性化に役立っている。通潤橋と周辺地域の清掃・保全活動を実施しているほか、棚田や農山村の原風景の保全にも取り組んでおり、源流地域には住民により「漁民の森」が植樹され、森林保全活動も活発である。
大分県	日田市	日田杉の筏流し、舟下り、鶴飼、遊舟、鮎釣と人々の生活に深くかかわってきた水文化を有し、ボランティアによる植樹や森林を守る基金の創設など水源林整備への取り組みが活発である。
	竹田市	大水害の復旧に際し、歴史的な水にかかわる施設の保存、創造的な復興など名水都市の建設をめざしたまちづくりに取り組んでいる。また、大野川流域の広範囲にわたる「遊べる川」の整備を行い、名水を利用した豆腐、もやし栽培、ドジョウの養殖なども盛んである。
	豊後大野市 (旧 三重町)	住民団体による河川浄化活動や、環境保護の実戦活動により、絶滅状態にあったゲンジボタルの復活に成功するとともに、「自然愛護条例」による自然環境の保全活動や、河川プールの設置による、水とのふれあいの場の創設等住民の生活と密着した形で水環境保全への取り組みが行われている。
	中津市 (旧 山国町)	猿飛千壺峡に代表される独特の河川景観を保全し、ボランティア活動による水にまつわる神事の伝承や生態系を配慮した河川プール、親水公園の整備などを行っている。

都道府県	地区名	「水 の 郷」 の 特 徴
宮崎県	延岡市	豊富な水資源は化学繊維工業等の需要に対応し、県内一の工業都市を形成しており、五ヶ瀬川の「鮎やな」、「イカダ下り」、さらに水神さん祭り、流れ灌頂などの伝統行事も伝承され、水とみどりと活力のあるまちづくりを目指している。また、岩熊井堰等の古くからの利水施設も適切に保存・利用されている。
	綾町	日本一の照葉樹林（約3,000ha）による森林やそれに育まれる清流と密接な結びつきをもった生活文化及び染織や、やななどの伝統工芸・文化を地域資源として活用している。
鹿児島県	指宿市 (旧 開聞町)	日本最古の井戸といわれる玉の井の史跡が保存され、その近くにある水源地の湧水を利用した「そうめん流し」は全国一の規模で行われている。また、唐船峡公園を核として歴史的風土を活かした竜宮の里づくりを進めるとともに、水質浄化に努めている。
	川辺町	豊かな水が流れる数多くの川には、江戸期の井堰が残存し町の随所に水神様が祀られており、井堰や湧水は住民が管理し、これを利用した「自然流水プール」が整備されている。
沖縄県	南城市 (旧 玉城村)	稲作発祥の地、霊泉として琉球王の信仰を得た受水走水などの史跡が多数あり、これと連携したグスクロードの整備や村土保全条例の制定などを行い、さらに湧水保全の清掃活動やこれを利用した酒の開発も進めている。

市町村名は平成18年7月1日現在